

青森南高等学校 赤田萌恵

パリでのテロの影響により、今回の研修は国内となってしまったのはとても残念でした。しかし研修が終わった今、国内の研修のほうが学ぶべきものが多かったのではないかと考えています。海外に目を向ける前に、自国のエネルギーの現状を深く知ることができたのは本当に素晴らしい経験でした。事前研修で日本のエネルギー事情を全て知ったつもりでしたが、まだまだ知らないことがたくさんあるのだと気付かされました。

このレポートで特に私の印象に残った場所について書きたいと思います。

北九州のエネルギーパークでは、公害によって汚れた町がどのように復興していったのかを学びました。ここで私が最も印象に残ったのはこの公害を問題視し、解決するために行動し始めたのは婦人会の方々だったということです。さらに、この婦人会の方々が行ったのは「教育」だったといいます。大学の先生を呼んで勉強会を開いたことが、最初に行った公害対策だったというわけです。この話を聞き、やはり教育が大切なのだなと改めて思いました。

私は、今日本が抱えているエネルギーの問題は資源不足の問題だけではないと考えています。私のような若い世代が全くエネルギーについて知らない、そして無関心であることも深刻な問題であると考えます。この婦人会の方々のように、まずはエネルギーについて教育をすることがエネルギー問題解決に向けての第一歩だと思いました。

次に自主研修で訪問したエコ・キャンパス北九州市学術研究都市です。この施設は光・風・熱などの自然エネルギーを最大限に利用するとともに、水やエネルギーを無駄なく利用するシステムを積極的に取り入れた施設です。この施設の中で私が一番驚いたのは汚水の浄化システムです。キャンパス内から出た汚水や雑排水はそのまま下水道に流すことなく、処理装置できれいにし、トイレの洗浄水に使っているのです。このシステムが全国の学校に取り入れられると、水の大幅な節約ができます。学校以外にも大型ショッピングセンターやビルなど人が多く集まるところに利用されるとさらに効果が期待できるシステムだと考えます。

しかし、このキャンパスのシステムには一つ欠点があります。それは発電する時に動かすガスエンジンが生み出す熱をほぼ空気中に放出してしまっているという点です。この熱は60～90℃ほどの温度があるそうです。私はここで生じた熱を空気中に放出しまうのはもったいないと思います。ここからは私の考えですが、この熱を利用して、温水プールをキャンパスに設置すると良いと

思います。まず熱が無駄にならないし、地域の方々にもキャンパスにきてもらうことができます。温水プールなので一年中体を動かすことができ、運動不足も軽減でき、より地域密着型のキャンパスになると考えます。

最後に私が最も今回の研修で心に残ったことばを紹介したいと思います。一日目に訪問したもんじゅで働いている方が「世の中に絶対安全だと言い切れるものは何もない。だから科学者は安全ではなく、危険をいつも考えなくてはならない。危険を考えた先に安全が見えてくる。」とおっしゃっていました。今の日本には原子力は危険だという人がたくさんいますが、そもそもこの世の中に安全と言い切れるものはなく、全てが危険なのです。確かに事故が起きたときに一番大きな被害を出すのは原子力発電です。しかしその事故を防ぐために必死に安全対策を行っている人たちがいるということも忘れないでほしいなと思います。

今回の研修会に参加することがなかったら、エネルギーの問題を真剣に考えることなどなかったのではないかと思います。商工会議所、東北エネルギー懇談会の方々のおかげでたくさんの経験をすることができました。そして、9日間という短い間でしたが、すばらしい仲間とたくさん考え、話した時間は私のかげがえのない思い出となりました。本当にありがとうございました。